

# 豊予海峡ルートにおける地質文献調査の結果

令和7年3月24日  
交通政策企画課  
道路建設課

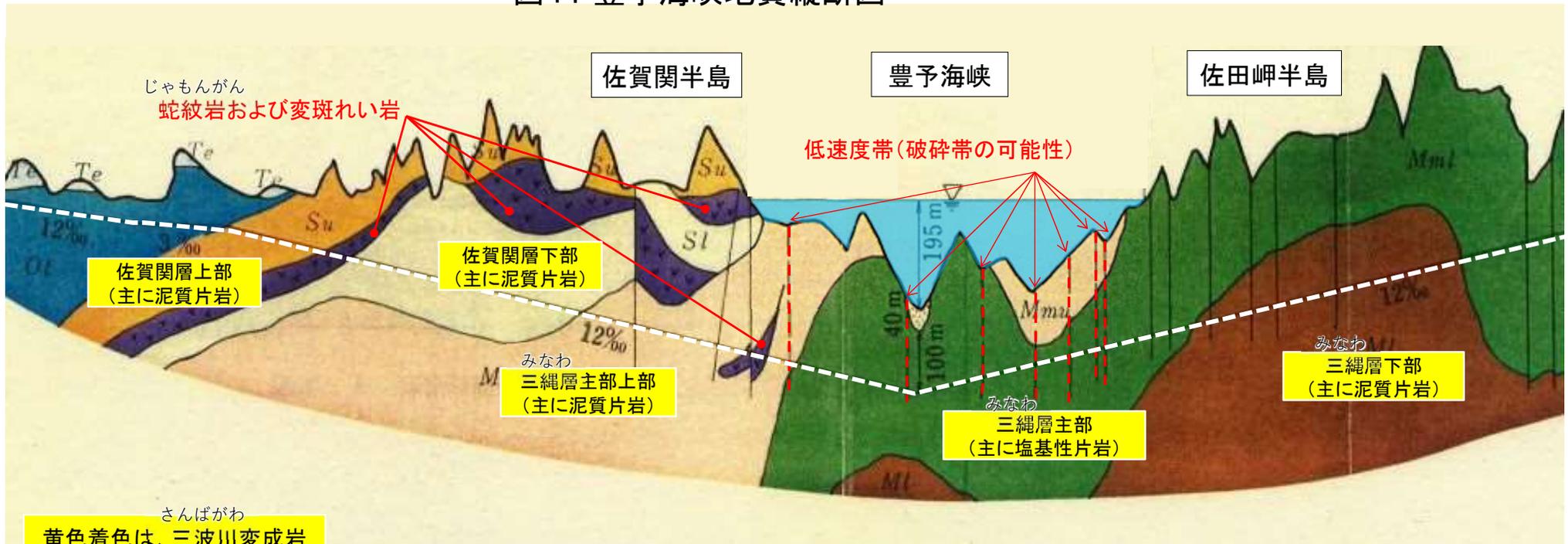
## 1. 旧日本鉄道建設公団による調査の概要

- 調査期間 昭和49年～昭和57年(9年間)
- 調査内容 四国側佐多岬半島、九州側佐賀関半島、豊予海峡区間の地形及び地質について調査を実施
- 調査結果
  - ✓青函トンネルで開発した海底トンネルの施工技術を活用すれば豊予海峡トンネルの建設は十分可能

旧日本鉄道建設公団  
から受領した資料  
・成果品66冊  
(段ボール9箱)



図1：豊予海峡地質縦断図



※ 三縄層主部上部は三崎層上部に、三縄層主部は三崎層中部に、三縄層下部は三崎層下部に対比できる(3.地質について参照)

## 2. 最新の知見を用いた再検証

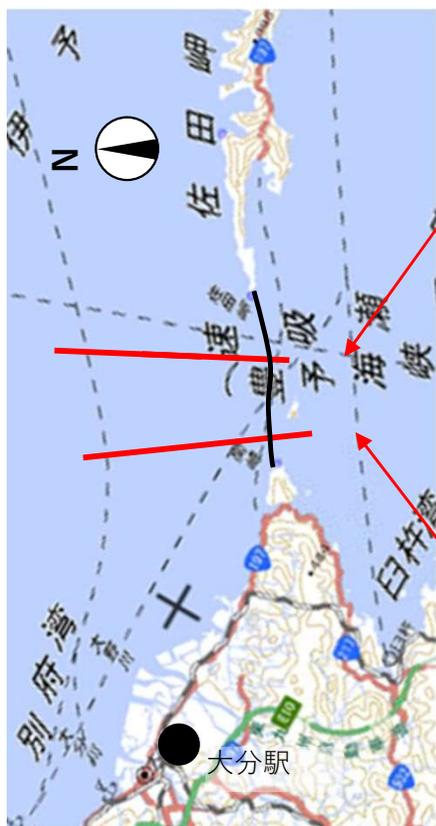
しょうへい

○再検証を行った専門家 産業技術総合研究所 吉見雅行主任研究員、宮崎一博招聘研究員

### ①活断層について

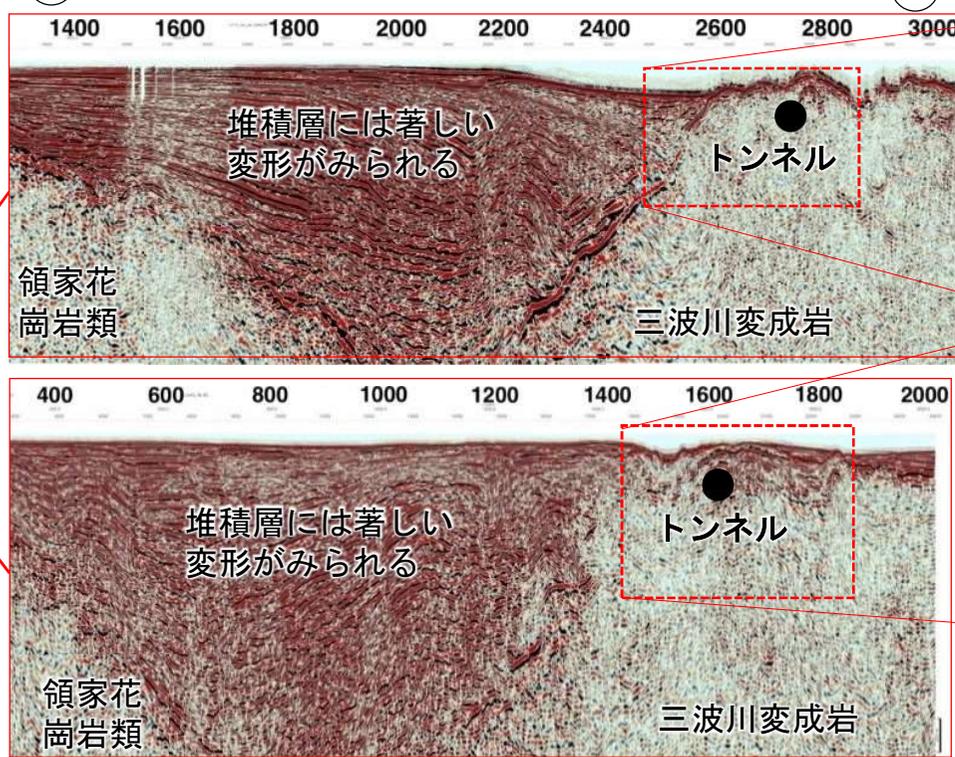
✓ 産業技術総合研究所の吉見雅行主任研究員により、既往の調査データを基に活断層に関する分析を行っていただいたところ、さらなる精査は必要であるが、トンネルルート上に活断層は確認できないとされた。

図2:位置図

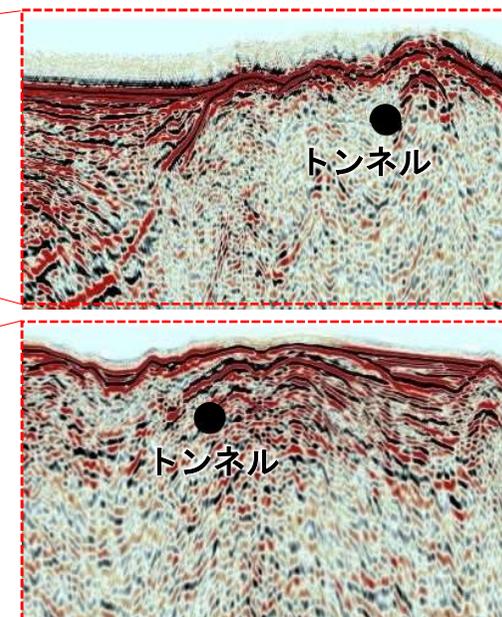


出典：電子国土Webデータ（国土地理院）をもとに大分県作成（ルートは旧日本鉄道建設公団調査時のルートに記載）

北 図3:反射法地震探査記録の解析結果



南 図4:豊予海峡付近拡大図



トンネル予定部には変形は認められず、明瞭な変形をもたらす断層は認められない

出典：別府湾の音波探査データ（由佐ほか（1992））の再解析結果（清水ほか（2017））に基づく産業技術総合研究所作成資料に大分県が加筆

## ②地質について

- ✓ 産業技術総合研究所の宮崎一博<sup>しょうへい</sup>招聘研究員により、最新の知見を持って検証をしていただいたところ、旧日本鉄道建設公団の地質図(地層構成)は大きく変わらないとされた。

付表：豊予海峡三波川変成岩類岩相層序区分対応表

鉄建公団地質図		園田(1985)	Hara et al (1992)	宮崎 (2024)		
佐賀関層		上部	秩父メガユニットII	一尺屋層 みかぶ (御荷鉾緑色岩*・泥質砂質片岩)	みかぶ 御荷鉾ユニット*	
		下部		白木層 (泥質砂質片岩) 福水層 (メランジュ帯) *		うちこ 内子ユニット*
三崎層		上部	三波川メガユニット されだに かばやま いずし (佐礼谷-蒲山-出石 ナップ)	泥質砂質片岩	伊予ユニット	
		中部		塩基性片岩		上部
		下部				

\*：蛇紋岩を含む可能性があるユニット  
じゃもんがん

出典：産業技術総合研究所作成資料に大分県が加筆

## ③まとめ

旧日本鉄道建設公団の調査で得られた地質環境に関する結果は、現在においても概ね活用可能